

爪水虫とは、爪の中に水虫の菌（白癬菌）が感染し、爪の色が白くにごり、爪が厚くなったり、爪が変形を起こす病気です。硬い爪の中に菌が入り込んでいるため、外用薬（軟膏やスプレーなど）では中まで薬が届きにくいので、爪水虫に効く薬は市販の医薬品にはありません。必ず皮膚科を受診してください。



処方せん薬の「爪水虫用の飲み薬」を決められた期間正しく服用すると、高い治癒率が得られることが報告されています。また最近では、爪に直接塗るタイプの処方せん薬も登場して、治療の選択肢が広がりました。爪水虫はかゆみや痛みもないので、治療しない人が多く、爪水虫から足の水虫へうつったり、逆に足の水虫から爪水虫にうつることがあり、治療をしないと再発を繰り返すことになります。

白癬菌はカビの仲間で、切った爪の内部でも半年間も生き続けているといわれています。家族の中で感染している人がいると、家族内でうつる可能性が高くなるので、気付いたらすぐに皮膚科を受診して治療を開始することが大切です。薬による治療に加えて、足

の環境を見直し、靴下をまめに取り換えたり、毎日同じ靴を履かないようにすることも大切です。足の中を蒸れにくくしたり、また入浴時に足を洗って再発しないよう心がけるとよいでしょう。約 8 時間連続して靴をはいていると、白癬菌の繁殖に好条件になるといわれています。時々、靴の中に風を入れましょう。詳しくは、薬剤師にご相談ください。

